

丹波篠山

あれれ、電線がない!? “裸”の電柱がニョキニョキと林立する奇妙な光景が、近世・近代の商家町の趣を色濃く残す丹波篠山市河原町の通りに出現した。実はこれ、景観向上

のため進められている「無電柱化事業」の一環。既に電線類は地中に埋設され、空中に張り渡した架線も取り外し済み。後は煙突のようにそびえる電柱の撤去を待つばかりなのだ。(堀井正純)



旧商家町の風情残す町並みに、配電線が取り外され、電柱だけが立ち並ぶ河原町通り
＝いずれも丹波篠山市河原町

重伝建地区・河原町通り
“裸”の電柱
ニョキニョキ

電線は地中に埋設
来月いっぱいまでの珍風景

河原町周辺は、国重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に選定されているエリアの一つ。京街道に沿って、丹波地区特有の妻入りの商家が立ち並び、市文化財の「西坂家住宅」「川端家住宅」のほか、「丹波古陶館」や「能楽資料館」が軒を連ね、土民家を改修・活用した宿泊施設や雑貨店などが点在する。

東西に走る河原町通り(約600m)には電柱(高約13m)が計39本あったが、今月8日に引き抜き作業が始まり、順次撤去。4月末には無電柱化が完了する見通しだ。

「空すっきりと広くなり、歴史的な町並みの魅力が再びアップする。コロナ禍も乗り越えたい」と、電柱の撤去費は電力会社などが負担している。

河原町通りの事業費は約3億9千万円、うち2分の1は国の補助金でまかなっている。ただし、市の事業柱の撤去費は電力会社などが負担している。

一階町交差点から篠山城跡三の丸広場まで約250mの「二市道」も昨年6月に地中化が完了している。

丹波篠山市は2017年、日本への観光客を増やすために国土交通省が創設した「景観まちづくり刷新モデル地区」に選ばれ、市は同年度から坂下地区で事業を展開してきた。

道路から引き抜かれ、運び出される電柱 (Copyright 丹波篠山市提供)



無電柱化の推進 電線類の地中埋設などによる「無電柱化」計画は、国内各地で進められているが、欧米やアジアの主要都市と比べ、大きく立ち遅れているのが現状。全国には約3600万本の電柱が立っているとされる。兵庫県内では芦屋市などが積極的。良好な景観形成というメリットだけでなく、震災や暴風雨時の停電対策となるなど、防災面の効果も大きい。

なまえ【 】

①電線がない “裸” の電柱が並んでいるのはどこですか。

市河原町の通り

②なぜ、電線がないのですか。

景観向上のため進められている「

で電線類は に埋設されたから

③この事業は景観向上以外にどんな効果がありますか。

震災や暴風雨時の となるなど、

の効果も大きい

④河原町はどのような歴史がありますか。

丹波地区特有の の商家が立ち並ぶ

⑤全国でこのような事業を行っている地区を調べてみよう。